

『新生児・産後のケアセンター誕生』

01



写真:小児科診療の様子

当院小児科はこの度、長らく続けて参りました新生児集中治療室(NICU)としての業務を終了し、2023年4月からは【新生児・産後のケアセンター】として産婦人科・小児科が一体のチームとなり妊娠から出産後までの母体と新生児、その家族を支援していく体制へ移行いたしました。

出産された女性が健やかに子育てをできるようにサポートいたします。出産後の疲労回復のための入院や、沐浴や授乳など十分な育児練習ができる入院などご家族のニーズに合わせて対応いたします。新生児ケアエリアでは通常の新児疾患の治療とともに高次医療機関での急性期治療を終えた新生児のその後の退院までのケア入院を近隣病院と連携して行っております。



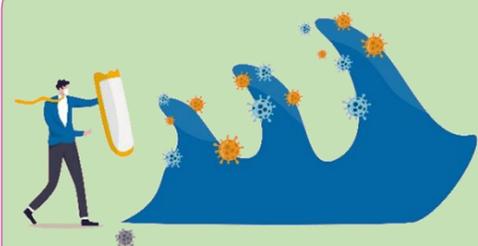
そして小児科・母乳外来では子育てをされている方の地域の身近な相談場所としても今まで以上に充実した診療を行っておりますのでお気軽に受診ください。新しく誕生した【新生児・産後のケアセンター】をこれからよろしくお願い申し上げます。活動の詳細は、産婦人科・小児科チームのInstagramをご参照ください。

InstagramQRコード

小児科診療科部長 今峰 浩貴

『新型コロナウイルス感染症の5類移行と今後について』

02



地域の皆さん、こんにちは。感染対策室の石原です。約3年に及ぶ長い戦いでしたが、2023年5月8日をもって、新型コロナウイルス感染症は感染症法上5類に分類され、戦いに一区切りをうつこととなりました。不自由な日常を送らなければならず、精神的にもきつかったことと思います。さて、我が国よりも早期に本症に対する規制を撤廃した英国の状況がどうなっているかお知らせします。英国の約85%が抗体(抵抗力)を持ち、患者数は上下しながらも右肩下がりで低下しつつあり、人口の約2%が常にPCR陽性となるエンデミックという安定した状態に向かっているようです。

我が国の抗体保有率は昨年末のデータですが、抗体保有率は約20%台にとどまっております。従って、今後も規模はわかりませんが流行は続き、上記のエンデミックという状態となるには半年から1年はかかるのではないかと考えられています。5月8日を過ぎてウイルスのほうは何も変わっていません。しかし、感染を恐れいろいろ制限する時期はもう終わりました。ではどうしたらいいのでしょうか。私からお伝えしたいのは「恐れる必要はありません。ただ注意深く行動しましょう。」というメッセージです。私の経験からではありますが、政府の行動指針に注意していれば容易には感染しないと考えます。このメッセージが地域の皆様が日常を取り戻す一助となれば幸いです。

感染対策室室長 内科診療科部長 石原 政光

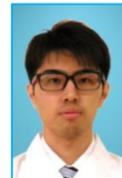
新任医師のご紹介

令和5年4月に皮膚科医師1名、研修医2名を迎えました。力を合わせて地域医療に貢献していきます。

皮膚科
日下部 有希子
専門領域:皮膚科全般



研修医
長沼 龍青



研修医
吉村 眞生



★病院スタッフ募集中★

03

今まで培ったキャリアを当院で活かしませんか？
優しさと思いやりを大切に患者さん一人ひとりに寄り添う看護・診療を一緒に行きましょう！
まずはお気軽にお問い合わせください。
募集職種につきましては病院ホームページの採用情報をご覧ください。

<お問い合わせ先>
人事課 水野・福田
(代表:052-832-1181)



お問い合わせ先
QRコード



撮影場所:蒲郡市 形原温泉あじさいの里 写真提供:用度課課長 幾田 和男

院長

メッセージ

Message of the hospital superintendent



病院長
春原 晶代

ごあいさつ

今年度、地域周産期母子医療センターとして運営してきたNICU(新生児特定集中治療室)としての業務を中止し、「新生児・産後のケアセンター」を開設しました。当院での出産は継続します。新生児・産後のケアセンターでは、急性期を脱した新生児の管理や育児指導などを積極的に行い、出産後の母子を支える医療を行います。また、諸事情により、一時的にホスピス聖霊を休床しました。緩和ケアの必要な患者さんは、一般病棟の中で緩和ケア担当の医師が主治医となり、入院医療を行います。多くの方に支えられて誕生したホスピス病棟ですので、早期に再開できるよう努力を続けています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

HOT NEWS

新副院長就任のご挨拶

この4月に新しく副院長となりました。
赴任前は八事日赤で整形外科・リハビリテーション科で診療していました。副院長として病院運営にも関わりますが、今後も整形外科・リハビリテーション科として臨床診療にあたります。

整形外科では変形性関節症や骨折などの運動器疾患を扱います。運動器疾患は健康寿命と大きく関係していますが、特に高齢化に伴い骨粗しょう症に伴う骨折が問題となっています。こうした骨折治療は高度医療を必要としますが、早期に治療しないと日常生活に大きな影響を及ぼします。すでに当院では大腿骨近位部骨折センターが稼働していますが、発生件数ではさらに多い背骨の骨折(脊椎骨折)の治療のニーズも高まっています。この治療にも力を入れ、地域で更に必要とされる医療機関になるように努めます。

患者様が地域で不安なく病気やケガの治療を行える環境づくりを進め、患者となった時、困った時に、聖霊病院なら安心できると思ってもらえる病院を目指します。



副院長 整形外科医師 安藤 智洋

『健康診断について』



写真：医事業務課 健診係

数年前より健診ブームとなっておりますが、皆様は定期的に健康診断を受けられていますか。健康でいられる年齢と寿命の間には約10年のギャップがあるとされています。

私も年齢を重ねるごとに病気が見つかり、健康にはより意識を持って日々過ごしております。コロナ禍において、皆様も健康意識が高くなっているのではないのでしょうか。

当院でも健康診断を行っております。特定健診、名古屋市のがん検診、人間ドック、脳ドック、大腸ドック、協会けんぽの健診、

企業健診や一般健診、その他様々な種類の健康に繋がる検査等も受け付けております。当院のホームページでもご覧いただけますし、院内にパンフレットもございます。気になること、聞きたいこと、分からないことが少しでもあれば、お気軽に健診係へご相談ください。ご来院もしくは電話でもお問い合わせいただけます。人生健康第一！健康で人生を楽しく過ごしましょう。

【当院で行っている名古屋市がん検診(ワンコイン検診)の種類】

肺がん検診 胃がん検診 大腸がん検診 乳がん検診 子宮がん検診
骨粗鬆症検診 胃がんリスク検査 ピロリ菌検査 C型・B型肝炎ウイルス検査
※年齢によって対象者が異なりますのでご注意ください。

医事業務課 健診係 鈴木 直子

『あなたの脳は健康ですか？脳ドックで早期発見を！』



写真：MRI装置

“無症候性脳梗塞”という言葉をご存じですか？脳の細い血管が詰まって起こる“脳梗塞”のひとつです。先の細い血管が詰まるため、脳の組織に明らかな影響が起らず、自覚症状がないため、見つけるのが困難な病気といえます。しかしながら、近年MRIなどの画像技術が飛躍的に向上し、脳ドックも盛んに行われるようになったことで、無症候性脳梗塞が見つかるようになってきました。健康な人でも加齢とともに頻度が高くなるといわれられており、老化現象のひとつとも捉えられます。

当院も健診に力を入れており、放射線技術科からは“**脳ドック**”をご紹介します。脳ドックは頭部CT、頭部MRI/MRA、頸部MRA、頭部X線撮影、頸部X線撮影を行います。脳腫瘍、脳血管障害などの脳の病気を早期発見し、治療につなげる目的に行われる健康診断の一種です。脳卒中・認知症の家族歴がある方や、高血圧・糖尿病・脂質異常症・喫煙歴がある方は一度チェックすることをお勧めします。

2023年2月にMRI装置の更新を行いました。この度導入したMRIは、最新のAI技術を用いて設計されたノイズ除去再構成技術を搭載した1.5テスラMRI装置です。日常検査において今まで以上に高画質の画像診断が可能になり、診断の確実性の向上を支援します。検査の高速化を実現し、MRI検査における患者さんの負担を軽減します。“自分の体は自分が一番知っている”という過信は禁物です。定期的に健診を受けることで自身の健康状態を確認し、病気を予防しましょう。

診療放射線技術科 技師 加藤 有記

『胃がん・大腸がん診療、内視鏡検査』



写真：内視鏡室スタッフ

胃がん：2013年に開始された慢性胃炎(診断には内視鏡検査を施行)に対するヘリコバクター・ピロリ菌(以下H.pylori)除菌の保険適応と2016年からの内視鏡を用いた胃がん検診の導入は、予防と早期発見による死亡率の低下につながっています。一方、75歳以上の高齢者の胃がん罹患数は増加しています。この理由としては高齢者にH.pyloriの現感染および既感染(主に除菌後)が多いからです。既感染者からも発がんしますので除菌したら安心ではありません。また、未感染者からの発がんの報告も増えています。

大腸がん：日本では1992年老人保健法に基づいて免疫便潜血検査2日法を用いた大腸がん検診が始まりました。対象年齢は40歳以上、検診間隔は1年に一回で、便潜血が2日のうちに一回でも陽性になれば、全大腸内視鏡検査による精検を行います。その結果、日本の年齢調整大腸がん死亡率(年齢構成の違いを考慮して補正した死亡率)は1996年頃から減少に転じました。しかし、主要7か国(G7)の中では最も高いのが現状です。これは日本における検診受検率および大腸内視鏡検査による精検受診率がまだ低いことが原因です。

内視鏡検査は消化器がんの予防や治療において重要な役割を果たしています。定期的に受けることで早期発見・早期治療につながります。

副院長 内科医師 藤本 正夫

『子育て中のママに伝えたい！検診のススメ！』



写真：産婦人科診療の様子

①子宮頸がん検診

妊娠前や妊娠初期に受けることの多い子宮頸がん検診、出産後も定期的な検診受診をお勧めしていますが、育児や職場復帰でバタバタ忙しく日々が過ぎていく...という方がほとんど。そこで「お誕生日検診」がオススメ！出産から1年経った時期に、産婦人科外来にて子宮がん検診を受けませんか？当院は土曜日(第二・四)の受診も可能で、女性の産婦人科医師も在籍しております。名古屋市に住民票のある20歳以上の女性は2年に1回、自己負担金500円で受診できます。また、無料クーポン券も年齢によって配布されます。

②乳がん検診(マンモグラフィ検査)

授乳を終えてから約半年経てば「マンモグラフィ検査」も受けられますので、ぜひ定期的なマンモグラフィ検査の受診をお勧めします。40歳以上の方は、2年に1回の受診が勧められています。また、『授乳をしていると乳がん検診が受けられない?』と思っておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、「エコー(超音波)検査」は別途費用で受けられます。このエコー検査は、ご希望の方に女性の検査技師が対応致しますので、初めての方でも安心して受診いただけます。健診科にて乳がん検診を申し込まれる際にご希望をお伝え下さい。

ママはお子さまのお世話、家事、お仕事に忙しい日々だと思います。だからこそ、定期的に検診を受ける目安として『お子さまの誕生日』や『自分の誕生日』に、ぜひ検診にお出かけください。自分のからだ、健康に注目するきっかけを増やしましょう！

3F病棟 主任 助産師 堀内 遥子